

科目名	社会哲学特講	担当者	ササキ タケン 佐々木 健	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	人間にとって社会とは何か、また社会の中に生きる人間とはどのような存在なのか。古典的なテキストを繙読することによって、このような問題を探究する。そのことを通じて、社会哲学とどのような学問であるのかに関する基本的な知見を得るとともに、21世紀の私たちが自分の生きる社会を見る理論的な視点を養うことを目指したい。		
到達目標	古代ギリシアの代表的な著作と近代社会の在り方を総括的に論じた19世紀の名著とを、丹念に読むことを通じて、テキストを正確に、正しいコンテキストにおいて読む訓練を行う。 テキストの読み方として、著作を、著者自身の立場に身を置いて、著者の立場に即して理解する姿勢をもつこと、同時に、そうして理解した内容を、著者の意向に沿いながら、自分以外の他者が読んで理解できるかどうかを反省しながら、平明な言葉で客観的に叙述すること。このような学問的態度の基本を学ぶことが望まれる。		
学修方法	文献（標準的な古典的テキスト）を精読する作業を中心に据える。日本語の文献を講読する。		
スケジュール	基本教材1は前期に、2は後期に、それぞれレポートを提出することが望ましいであろう。 しかし、教材の1と2は、テーマ的に、また概念上、理論上、密接に関連しているので、レポートの内容に関しては、前期レポートは教材1だけ、後期のものは教材2のみを論じなければならない、と固定的に考える必要はない。		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	60%	課題となっているテーマについて、的確な記述がなされているかどうか、一つの重要なポイントである。文章による議論の展開の仕方が評価のポイントとなる。
	平常評価	40%	同時に、レポートという文章による作品を完成するまでの努力の過程、基礎作業のプロセスを重視したい。
履修者への要望	基礎的な読解力、問題への学問的関心、概念把握、論理的な記述能力、等を重視する。そしてまた、そのような方面の学力を養ってほしいと願っている。そのためには時間を要するので、じっくり、腰をおちつけて課題と向き合してほしい。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 1. アリストテレス著（高田三郎訳） 教材名： 『ニコマコス倫理学』（上）（下）（岩波書店，2012年） 上 ISBN:978-4-00-007346-2/下 ISBN:978-4-00-007347-9 各 1,400円+税 著者名： 2. ダントレーヴ著（友岡敏明・柴田平三郎訳） 教材名： 『政治思想への中世の貢献』（未来社，1979年）〔具体的には，トマス・アクィナスに関する必要な箇所をコピーしたものを送付します〕
履修上のポイント	1. 古代ギリシアの哲学者アリストテレスの著作の一つであり，古代における倫理学の代表的な著作。善とは何か，徳とは何か，いかにして徳を身につけることができるか，といった倫理上の理論的，実践的な課題に取り組んだ労作である。 2. 13世紀の哲学者トマス・アクィナスは，中世における代表的なキリスト教神学者であるとともに，アリストテレス哲学の優れた理解者・継承者であった。そのアクィナスの哲学思想の核心を捉えた簡潔な論考である。
参考図書	ここでは，とくに掲げない。履修者の関心に応じて，適宜，指示する。
レポート課題 1	アリストテレスの『ニコマコス倫理学』の課題・主題は何かを示し，この著作における「善」，「幸福」，「徳」，「正義」の概念を分析しなさい。 留意点： 『ニコマコス倫理学』だけをテキストに使うこと。
レポート課題 2	トマス・アクィナスの自然法思想を検討し，アリストテレスとアクィナスとの「国家・社会」観の共通性と差異性を明らかにしなさい。 留意点： ダントレーヴの記述に依拠して差し支えありません。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： G.W.F. ヘーゲル著（藤野渉・赤澤正敏訳） 教材名： 『法の哲学』II（中公クラシックス）（中央公論新社，2001年） ISBN: 9784121600219 1,500円+税
履修上のポイント	19世紀ドイツの哲学者ヘーゲルの代表作の一つである。「法ないし権利」，「道徳」，および「倫理」の3部からなる。第3部「倫理」は，「家族」，「市民社会」，「国家」の3章に細分される。近代社会の意義と課題を明らかにしたものである。「倫理」の部分を読んでいく。
参考図書	ここでは，とくに掲げない。履修者の関心に応じて，適宜，指示する。
レポート課題 1	ヘーゲルの「倫理（人倫）」論のうち，家族論，市民社会論，および国家論のなかからいずれか1つを選択し，その議論を要約・総括し，あわせて倫理（人倫）論におけるその位置を明らかにしなさい。 留意点： ヘーゲルが「倫理（人倫）」をどのように位置付けているかを簡単に明示し，家族論，市民社会論，ないし国家論の要点を簡潔にまとめること。
レポート課題 2	『法の哲学』のなかから，ヘーゲル哲学の重要な概念，キーワード，命題，章句，等を1つ，または複数選び，その正確な意味をヘーゲル哲学の論理的文脈に沿って説明し，さらにヘーゲル哲学（あるいは一般に哲学）を勉強することと自分の学問との関わりについて述べなさい。 留意点： 1年間の学習の成果，達成度を測る意味をもつレポートとなります。各自の問題関心に従って，各自のヘーゲル理解にもとづいて議論を展開すること。